

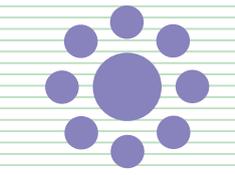


明々庵茶会 12年ぶりに三齋流が席を担当



晩秋の一畑薬師茶会

お茶会シーズン再来 各席賑わう
亀山茶会・松江城大茶会・明々庵茶会
一畑薬師茶会・三齋忌茶会 他



三齋流

九曜会だより

発行

三齋流九曜会

会長 小林祥泰

事務局 出雲市今市町53

令和五年五月に新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられて以降、九曜会事業を中心に大寄せ茶会やご法要、記念茶会等が各地で次々と催されました。各茶席では、自粛期間中に施された工夫や経験を活かした対応がなされ、開催を待ちかねた大勢の方々が状況にに応じてお茶会を満喫される様子が見られました。徐々に賑わいが戻り、まさに「お茶会シーズン」といえる秋となりました。

年頭の能登半島地震により、ご逝去された方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の早期復興をお祈りいたします。

九曜会事業報告

〈令和五年七月〜令和六年八月〉

○総会

令和五年七月二十三日(日)

ホテル武志山荘

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、通常通りの開催となりました。小林会長と宗浦家元の挨拶に続き、令和四年度事業・会計決算報告、並びに令和五年度事業計画・予算案が承認されました。



小林祥泰会長

午後は、久々に県外から講師をお招きし、講演会が催されました。講師の福原透氏(八代市立博物館未来の森ミュージアム元副館長)には、「細川三齋の生涯と茶」と題し、文献より、利休の教えを後世に伝えた武将細川忠興公についてご講演いただきました。熊本地震の被災者であり、歴史の足跡を守り伝える研究者としてのご苦労も伺いました。また今回、四年ぶりにお茶席も設けられました。

【薄茶席】
山茶花の間

担当 直門

来客数 八六名

梅雨が明け、連日猛暑が続く中、四年ぶりに行われた総会の茶席。床には宗浦家元筆の「無事」を掛け、久しぶりに制限のないお席となり、和やかな一時をお過ごしいただきました。

今回はお道具の準備、当日の設えなど、経験したことで見えるもの、学べたことが多々あり、今後一層精進をし、感謝の気持ちを忘れずに学び続けていきたいと思いをしました。

(直門 矢野由美子)



福原透氏



4ページへ続く

三齋流九曜会だより



堀内宗心宗匠

私自身、正直、茶の湯において秀でた才能はない。恐らく努力などでは埋められないものがある。師匠である堀内宗心宗匠の側にいればそれはわかる。宗匠の元で二、三年が過ぎた頃、宗匠の外に行かれる仕事にお供させて頂く事が増えてきた。今日は神戸の生田神社のお献茶である。神戸の大先輩の林さんが、前日から準備をして待ち構えている。この日は表千家家元の献茶で、代理で久田家十二代尋牛斎宗也宗匠のご担当である。堀内宗匠は献茶の水屋であったと思う。お茶席は林さんであり

ました。しかし、台風が直撃をするといふ惨事に。

さて、ほぼ来場される方もなく無観客と言っているほどの中、お献茶が終わり、お茶席にて久田宗匠が、「せっかくだと用意もありますので、一服頂こうか」と仰られ、

宗心宗匠も「そうですな」と。久田宗匠から「あんさん、やりなはれ」と、まさかのご指名。久田宗匠は私自身憧れの人もある。立ち居振る舞いからお話の仕方まで、とても素敵な方でありました。そんな宗匠の前でお点前つて！ 今思えば、後にも先にもあれ程緊張し、嬉しかったお点前はない。

林さんに、「本当に私がお点前してよろしいでしょうかね？」とお聞きし、林さんも「せっかくだと機会だからやりなさい」と。この時の気持ちをよく覚えていた。「林さん！ やめとけと言つてよー、私が代わりにやるからとかさー」「久田宗匠、なぜ私を指名？ まあ近くにいて暇そうにはしてましたけど」「宗心宗匠もさ、隣でニコニコしないでなんか言つて〜」と心の中で言いながら、水屋で準備をした。

正客 久田家十二代尋牛斎宗也宗匠
次客 堀内家十二代兼中斎宗心宗匠
その他 玄関他
詰 大先輩 林宗不宗匠

「なんだこれ〜」。とは言うものの、特に私の点前など誰も見ていません。宗匠方は掛物やお道具のお話に盛り上がりつつ、何事もなく点前も終わりました。

茶室に入りますと、久田宗匠が一言、「あんさんはお点前下手ですなあ〜」と満面の笑みで仰つて、「いいかな、若い時はゆつくり、これでもかと言うくらいゆつくり、丁寧だね。よろしいか？」と。私「はい、ありがとうございます」

久田宗匠「うん、ご苦労さんでした」、宗心宗匠はニコニコ、という散々な、貴重な体験でした。

この後、久田宗匠の御指導される姿を一度拝見したことがあるのですが、一切点前する方を目視することはなく背中側に座られ、間違えると「うむ、違います」と仰せになります。お付の方に話を聞くと、「空気で御指導されます」と。

ご覧になっていないようで全てを見透かされていた事に気が付きました。

この後、宗心宗匠のお背中からのお姿をしつかり見る事に致しました。到底その領域に達することもなく、やはり私には特に秀でたものはない。



賛助会員の皆様
の活動や、日々の
お茶との関わりを
ご紹介いたします。今
回は、浦楽会です。

森山宗浦三齋流
家元が出雲ロータ
リークラブに入会され、会員有志
八名が家元を応援しようと会を立
ち上げました。二〇一二年四月。

初例会で那須会長を選出し、第三
水曜日を例会日としました。現在
までの行事は、二〇一三年移動例
会を皆生。懇親会は目から鱗の盛
り上がりでした。二〇一八年入門
許状を頂く。二〇一九年広島夏季
研修。ゴルフ組は当日広島C西条、
翌日加茂C。夜広島市内で懇親会。
二〇二二年三月海田会長就任。会
員十三名で会則を設定し、現在に
至る。二〇二三年京都研修。萬福
堂吉村楽入方で茶碗二個を作成。
翌日、家元の修行された建仁寺を
家元同期生が案内。泉涌寺見学。
懇親会には宮川町舞妓、芸妓、三
味にて素晴らしい一刻を過ごす。

会則の目的は、三齋流家元森山
宗浦氏を囲み楽しい語らいの場と
し会員相互の研鑽、親睦の輪を深
め、家元の隆昌に寄与する。他は、
この会は浦楽会と称し例会場を観
翠庵新道場泰雲軒とする。等です。
例会は正客、お詰めを毎回順番

とし、読めない掛け軸を「あーだ、
こーだ」と言いながらお稽古をし
て「たんびが初めて」でいつまで
たつても上達しません、家元の
お茶、歴史等の話を聞いています。
浦楽会の由来は文字通り、家元
と語らい、楽しむ会です。九曜会
の賛助会員として微力ながら各催
しに参加させて頂き、勉強して会
員の意識もおおいに上がっており
ます。

そして何よりの楽しみは、稽古
後の家元を交えての居酒屋での二
次会です。出席会員が全員で、飲
みながら反省会？です。中には稽
古には出ずお茶ならぬお酒の稽古
で待っていますという猛者もおり
ます。いずれにしても会員が和気
あいあいと結束し、家元を盛り立
てて会を続けてまいります。
(浦楽会会長 海田孝雄)



浦楽会の皆さん

第9回 先達探訪
三齋流の先生を訪ねて

今回は、長年九曜会でご活躍の岡田先生のお宅にお邪魔いたしました。普段、お稽古場として使われているお茶室にて、先生の大好きな言葉のお軸「一期一会」のお話をしてくださり、お茶をいただいた後、別室でお話を伺いました。



岡田喜世子先生

◆三齋流との出会いは？

中学校の担任の先生から進学を進められました。当時は女子の進学は少なく、弟が五人いたこと、長女だったこともあり、家の印刷会社の手伝いをして欲しいと両親に頼まれ、印刷会社を手伝うことになりました。中学を卒業してすぐに花嫁修業の一つとして茶道を習うことを許してもらい、掛合の専正寺にお稽古に通い始めたのが、三齋流との出会いでした。結婚してからは、子育てと夫の転勤で茶道から離れていました。師匠であり弟の大田(※)と岐阜の石原さんが同級生で心やすくし

ており、松江の大草町に庭の広い茅葺屋根の大きな家を求め、二人



(※故大田靖先生)

◆祥山宗匠との思い出は？

初傳をいただいた時、家元の前で桑小卓のお点前をしたことが思い出に残っています。専正寺の禿先生とバスに乗って家元に行き、初めてお茶室に通らせていただき、庭の笹竹がまるで挿してあるかのように見えたことが印象的でした。お点前をした後、お食事をいただきました。皆が緊張していて、宗匠が「お替りして」と言われても「結構です。沢山です」と言うと、宗匠が皆に後ろからお椀にご飯のお替りをついでくださり、緊張感が解きほぐれ人柄が感じられました。

◆宗瑞宗匠との思い出は？

夫の転勤でお会いすることがほぼ

とんどありませんでした。峯寺で雲南翠木会の初釜があり、宗瑞宗匠が恒例の干支の絵を描かれた時、とつさの思いつきで、にわたりの鶏冠に社中の人から口紅を借りて色を付けていただいたことを思い出します。

◆印象に残ったお茶会は？

平成二十一年十月十一日、明々庵で大田社中が担当したお茶会です。私が後見を任せられ、後見の後ろに大田が座り、私が挨拶をしようと思うと後ろから「挨拶」、お軸の話をしようにと思うと「軸の話」とボソッと声をかけられ、気にかかるようでした。これが大田にとり最後のお茶会となりました。社中の皆が分かっていたので、何と



も言えない気持ちだったのを覚えています。

◆お茶とは？

師匠の大田が亡くなった時、お茶をやめようと思いましたが、社中の皆から「付いていくので続けてください」と言ってもらい、自宅に稽古場を移しました。朝起きたら優先的にお茶の事を考えて生活し、お茶があるからいろんな事を頑張れました。そして社中の皆と家族の協力があつたからお茶を続けられました。心より感謝しています。

◆後輩へ伝えたいこと

茶道は日本の伝統的な文化であり、これからの時代に残すためにも続けて欲しいです。私が子育てや夫の転勤でお茶から離れていて修行が足りないと思うからこそ、よけいに続けてお稽古をして欲しいです。



◆岡田先生には和やかな時間を作ってお話をいただき、感謝いたします。先生の益々のご健康をお祈り申し上げます。(広報部 井谷安江・堀江紀子)

祝・米寿(昭和十二年生まれ)
おめでとうございます

園山玲子先生 (下垣社中)
細木春枝さん (野々村社中)
ご健康とご多幸を
お祈りいたします。

日吉神社で献茶式

令和五年九月三十日(土)
出雲市今市町の日吉神社にて、宗浦家元による献茶奉納が執り行われました。毎年、十月第一日曜日に御神幸祭というお祭りがあり、その前日の例大祭の時に献茶式が行われます。平成十年の遷宮の後、宗浦宗匠の代から二十年以上続けられています。
コロナの影響で中断していた呈茶席も、今回から復活しました。(広報部)



1ページより続く

○亀山茶会

令和五年九月三日(日)
出雲大社北島国造館

【献茶式】

殊のほか残暑厳しい中、御神殿において祝詞が奏上され、宗浦家元による献茶式が、参列者に見守られながら厳かに執り行われました。続いて、小林会長により玉串が奉奠され、一同拝礼し、無病息災、五穀豊穡と三齋流の隆盛を祈念しました。

今回は会員だけでなく、一般や他流派からの参会もあり、一服のお茶に涼を求めて寛ぐ姿が見られました。



【拜服席】
八雲会館

担当 伊藤社中
来客数 一二二名

猛暑の為、今回初めて八雲会館での拜服席を担当させていただきました。

涼しい所での一服と目でも楽しんでもらええる設えにと、心を込めました。

連日の暑さで、一番の主役でもある花が咲くのか当日まで心配し、何とか生ける事が出来ました。いつも、珍しい花を持って来てくださる心強い人に助けられています。

茶席の影に家族や色々な人達の支えがあつて、お陰様で無事務めることが出来ましたこと、感謝申し上げます。

(伊藤社中 高野明代)



【薄茶席】

担当 亀山会館 亀游の間
来客数 一一九名

担当 山本・加儀社中

置床を柱付きに設置して、その柱から三畳の点前座を設けました。客座を直線で二列に配置すると、正面には北島本殿・亀山庭・滝の流れる池の大きな視界を臨むことができ、夏の名残りのビューイングとなりました。

お献茶の添え釜として、嬉しい役目を果たせたと感謝しています。

(山本社中 山本ますみ)



○松江城大茶会

令和五年十月二十八日(土)
二十九日(日)

明々庵 百草亭
担当 福岡・大田・辰村
米子・安来社中

来客数 一五八名・一二七名

コロナ禍だったので、島根・鳥取・県外からの来場を可能にした久しぶりの茶会でした。

深まりゆく秋の風情を感じてもらえる設えにし、お客様には明々



庵の庭とのロケーションを喜んでもらえたと思います。

合同社中ではありましたが、点出し、お運びと連携よくスムーズに出来たと思います。

お客様より「三齋流のお茶は美味しかった」とのお言葉をいただき、茶会が出来る喜びを感じ、感謝いたしました。

(福岡社中 山本順子)

○明々庵茶会

令和五年十一月五日(日)

赤山茶道会館
担当 直門

来客数 一二八名

澄み切った秋空のもと、お席を担当させていただきました。

床には、平和で穏やかな風が世界中に吹き渡ってほしいという願いも込め、宗浦家元の「千里同風」を掛け、お客様をお迎えいたしました。

朝から気温が上がり、季節外れの冷房を掛けながらのお茶席となりました。不慣れな点多々あったとは思いますが、無事にご奉仕させていただけたことに感謝申し上げます。

(直門 梶谷旭生)



○一畑薬師茶会

令和五年十一月十八日(土)
十九日(日)

一畑寺 本坊書院
担当 山田・下垣社中・直門

来客数 二三〇名・三一五名

夏の大雨の後からの迂回路を通つてお越しいただくこととなった今年の一畑薬師茶会でした。急な寒波到来の中、両日とも沢山の方にご来席いただき、大変充実した二日間でした。コロナ禍を経て、賑やかな茶会が開催されることを心待ちにしてくださいませ。

様の熱気をひしひしと感じました。各席毎の時間が余裕を持って設定してあったので、ゆっくり楽しんでいただけたと喜んでおります。(下垣社中 佐藤彰尾子)



○三齋忌

令和五年十二月三日(日)

【呈茶席 濃茶】

観翠庵道場 松露亭

担当 杉山社中

来客数 五四名

五月より新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられ、久しぶりに三人一盃での呈茶となりました。床は、無文老師筆「萬法帰一」。年末の慌ただしい中、心新たに「二」に帰ってお茶を愉しんでいただきたく、心を込めて一盃を差し上げました。

十一月には雲南翠木会五十周年茶会もあり、個人的には多忙の年でありましたが、多くの方々のご支援のお陰で無事、席を終えることが出来、心より感謝申し上げます。(杉山社中 錦織君子)



【薄茶席】

観翠庵道場 富士の間

担当 佐藤社中

来客数 五六名

新型コロナウイルス感染症の制限も収まり、一席九名で客を迎えました。

床は三齋公の「柿の文」。花入は銘「温公」の古小代。茶杓は三齋公の「黒鶴写」を、仙台の埋木で模した小竹孝作。茶盃は上野焼十時窯の白川甫硯作に宗瑞宗匠銘の「霜楓」等、三齋公に因む道具で、菓子坂根屋に特注した「九



曜紋、味噌板」を使用しました。社中は、茶会の経験が少ない入門者を含めた五名。直門の方の応援に感謝します。(佐藤社中 佐藤忠正)

○講習会

令和六年二月二十四日(土)

今市コミュニティセンター

参加者数 三六名

「五月より使いたい風炉・糞盆の灰をしましう」のテーマでお家元・典子先生を講師に研修を行いました。



使用後の釜の扱い方や灰の作り方、風炉と炉の灰の違い等、分かりやすく説明いただきました。お家元には風炉の灰、典子先生から糞盆の灰の仕方の実演を受け、美しい灰に感嘆の声が上がりました。講義の後、グループ毎に灰押しをしました。協力し合って取り組

みましたが、思うようには行かず(お家元や典子先生に修正していただき)最終的に美しい灰押しが出来、幸せいっぱい心地の一日でした。(研修部 錦織君子)

○早春の茶会

令和六年三月二十四日(日)

出雲文化伝承館 出雲屋敷

担当 山崎社中

来客数 二八五名

当日は、心配された雨もそれ程降らず、他流派の皆様やお子さん連れのご家族、外国の方など、大勢の方にお越しいただきました。広い出雲屋敷でお席を担当するのは初めてで、不安もありましたが、皆様のご協力でほぼ時間通りに進行することができました。



長板のお点前や春のお茶席の雰囲気を楽しんでくださっている様子に社中一同喜び、更に精進しようとの決意を新たにしました。(山崎社中 森山美沙紀)

○新樹の茶会

令和六年四月二十九日(祝・月)

【薄茶席】

観翠庵道場 富士の間

担当 野々村社中

来客数 一〇九名

恒例の新樹の茶会が行われました。観翠庵道場の美しい緑に囲まれ、爽やかな雰囲気の中、野々村社中が薄茶席を担当しました。「相識天下満」竹田益州老師による仲間を大切に想う書を飾り、雲南の野山から持ち寄った黒蠟梅と都忘れ、花筏を月岡三郎作の花壺に



三齋流九曜会だより

生けました。他にもたくさん雲南の草花が控えていましたが、お披露目は次の機会とさせていただきます。

社中十二名が貴重な体験となりました。

(野々村社中 大坂 亮)

【呈茶席】
観翠庵道場 松霞亭

担当 加儀・山本社中

来客数 一〇七名

新緑の中でのお茶会。三齋公にまずお茶をお供えし、「利休居士茶の湯の語」のお軸、武蔵鏡のお花、そして観翠庵代々のお道具を中心にしてお迎えを致しました。心をこめて点て一服のお茶をお出しし、ゆっくりお召し上がり頂きたいと思いつつも、今回は時間に時間を守ろうという事で失礼があったかと、思います。お詫び致します。前日の準備から当日のお掃除！受付の方々のご配慮感謝申し上げます。

(加儀社中 加儀信子)



○出雲大社大茶会

令和六年五月十五日(水)

出雲大社 東神苑

担当 直門・大野社中

来客数 三四〇名

天候に恵まれ、時折吹き抜ける風が心地良いお席となりました。宗瑞宗匠の「三級波高魚化龍」の軸と菖蒲を薄端の花入に生けた床は、「すつきりとしたお床ですね」との声を幾人かのお客様から頂きました。また、お点前の担当は入門年数が短いにも関わらず、果敢に挑まれていました。お稽古日が違い、全員と顔を合わせることも少ない直門ですが、心を一つにして臨んだお茶会でした。

(直門 福岡佳美)



○青年部さくら会

コロナも5類になり、青年部の活動も戻りつつあります。今年度の小山園呈茶ボランティアは、七月の七夕会、八月の夏祭り、十月の駅伝応援、一月の初釜、三月のひな祭りを行いました。それに加えてインスタグラムからの発信を6件行いました。



新たな活動として今年度、「お稽古ノート」の作成の為に話し合いを重ねております。

これらにより三齋流が世の中の方に周知される事を願っています。

(青年部 三島羊子)

雲南翠木会

創立五〇周年記念茶会

十一月十二日(日)、雲南市三刀屋町の古刹、出雲大峯中嶺山峯寺にて、雲南翠木会創立五〇周年記念茶会が、宗浦家元、宗育宗匠、

典子先生をはじめとする来賓の皆様をお迎えし、総勢六十六名が集い盛大に開催されました。

松浦快逼住職の読経の中、式典に先立ち、雲南翠木会の設立、発展に多大な貢献をなされた故二十三代田部長右衛門氏、観翠庵祥山宗匠、宗瑞宗匠他に供茶が捧げられました。

式典では、宗浦家元と来賓の方々が祝辞を述べられ、杉山郁子実行委員長より謝意を表し、発展を祈念する挨拶がありました。

続いて、「名利共休」と題して宗浦家元による記念講演が行われました。

不味公作庭と伝わる庭を望む書院の間に釜が掛けられ、本堂桜の間には呈茶席が設けられて、会員の方により薄茶が振る舞われました。移りゆく季節の中で冷たい時に雨に風情を感じ、温かなおもてなしが心に残るお茶会でした。

(広報部)



記念事業開催のお知らせ

三齋公三八〇年遠忌茶会

令和六年十一月十七日

(鎌倉 建長寺)

九曜会創立七〇周年記念茶会

令和七年三月十六日

(ホテル武志山荘)

須佐神社遷宮記念献茶式

令和七年十一月二十三日

(須佐神社)

ご冥福をお祈りいたします

古川夏子先生 (令和六年三月)

長年のご尽力に

感謝申し上げます。

編集後記

今夏も美しく咲いたのうぜん葛に見入っていると、一瞬、猛暑を忘れるようです。年明けからの震災に心痛し、何が起こるか分からないと思う昨今、お茶を楽しめる日常が在る幸せを噛み締めるこの頃です。発行にご協力いただきました。今年度より大きな行事が続く、期待も膨らみます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(広報部)